

コース管理システム及びそれを基盤とする授業に対する学生の反応

岩崎 日出夫

東海大学 札幌教養教育センター

iwasaki@tokai-u.jp

概要：コンピュータ実習室を使用する授業では、コース管理システムを授業中に用いることができる。もし、授業の基盤と言えるほど全面的に使用するならば、出欠調査や資料配布などの時間を大幅に縮小できる、自動採点の試験を行うことができる、一斉授業であっても個別授業的な対応ができる、教授／学習の記録が一元的に管理できるなど、多くのメリットを享受できる。しかしながらそれらのメリットは、直接的には教員にとってのメリットであり、使いたいと思うのは教員である。コース管理システムを基盤とする授業を継続的に行うには、学生がどう思っているのかを調査し、把握しておく必要がある。筆者は、過去7学期に渡り、コンピュータ実習中心の情報科目において、コース管理システムを基盤とする授業を行い、各学期末に学生がどう感じたかを調査してきたので、本報告ではその一部について詳細を報告する。

キーワード：コース管理システム, CMS/LMS, moodle, 授業, 学生アンケート

1 はじめに

コース管理システム (Course Management System, 以下では CMS と記す) は、講義資料などの教材の作成・提示, テスト・ドリルの作成・実施・採点, 課題の作成・提示・提出・採点, 評定表やその他の学習履歴の生成・蓄積・管理, アンケートの作成・実施・集計, メンバ (学生, 教員, TA) 間のコミュニケーションなどの機能を, Web 上で総合的に提供するブレンディッド・ラーニングの基盤 (となり得るツール) である。コンピュータ実習室を使用しない授業 (一般の講義科目など) では, 授業中に CMS へアクセスすることができないため, 主な用途は予習, 復習, 宿題である。学生には, いつでもどこでも, 予習, 復習, 宿題に着手, 提出できるメリットがある。しかしながら, 教育的には, CMS を使わない場合と同等かそれ以上に学生のやる気の有無が問題となるため, 授業内容との関係の深さや授業時間内外でのメンタリングが重要である。一方, コンピュータ実習室を使用する授業では, CMS を授業中に用いることができる。もし, 授業の基盤と言えるほど全面的に使用するならば, 出欠調査や資料配布などの時間を大幅に縮小できる, 自動採点の試験を行うことができる, 一斉授業であっても個別授業的な対応ができる, 教授／学習の記録が一元的に管理できるなど, 多くのメリットを享受できる。しかしながらそれらのメリットは, 直接的には教員にとってのメリットであり, 使いたい

と思うのは教員である。CMS を基盤とする授業を継続的に行うには, 学生がどう思っているのかを調査し, 把握しておく必要がある。筆者は, 過去7学期に渡り, コンピュータ実習中心の情報科目において, CMS を基盤とする授業を行い, 各学期末に学生がどう感じたかを調査してきた。ここでは, 新入生が最初の学期 (春学期) に履修する「情報リテラシーA」について, 学生アンケートの結果を報告する。

2 CMS ベースの授業の概略

「情報リテラシーA」は, 2単位の初年次情報科目であり, 本学札幌キャンパスの全学科に設置されている。内容は教養科目であるが, カリキュラム上は専門選択科目である。教職の選択必修科目であることもあり, ほとんどの学生が (初年次に) 履修する。担当者は常勤2名, 非常勤2名であり, 各担当者が複数のクラスを担当している。筆者は2008年度～2011年度の各春学期に, 4コマ (文系1学科2クラス, 理系2学科1クラスずつ) を担当した。授業内容は以下の通りである。

- ワード&パワーポイント (論文・レポート形式の文書作成法, 研究発表のためのスライド作成法, それらに関連するパソコン基本操作及び周辺知識)
- インターネット (情報検索の方法, 情報の真偽の見極め, ビジネスEメールの作法, それらに関連するパソコン基本操作及び周辺知識)。

- 情報社会（サイバー犯罪，知的財産権，個人情報保護法，情報セキュリティ，情報倫理）。

ここで，ワード&パワーポイントは実習形式の授業，インターネット，情報社会は講義中心の授業である。これらの学習内容に対して，オープンソースのCMS：Moodleを用いた。毎回の授業の流れと使用したMoodleの機能はおおよそ以下の通りである。

- (1) 出席調査：投票機能または小テスト機能
- (2) 小テスト：小テスト機能
- (3) 講義（Moodle上にアップロードした講義資料の利用）：ファイルへのリンク機能
- (4) 課題取組み：課題機能
- (5) ミニツッペーパー[1]：小テスト機能

また，これらの毎回の活動以外では，成績の開示（評定機能），定期試験の実施（小テスト機能：○×問題，多選択肢問題，用語記述問題など自動採点可能なものを用いた）などを行った。

3 学生アンケートの結果

2008～2011年度の各春学期の情報リテラシーAの受講者に対して，学期末に以下の質問を記名式で行った。

質問1：Moodleを便利だと思えましたか

1. ぜんぜん便利だとは思わなかった
2. あまり便利だとは思わなかった
3. わりに便利だと思った
4. 非常に便利だと思った

質問2：Moodleの利用に楽しさを感じましたか

1. ぜんぜん楽しさを感じなかった
2. あまり楽しさを感じなかった
3. わりに楽しさを感じた
4. 非常に楽しさを感じた

質問3：Moodleを用いることで学習意欲が増したと思えますか

1. ぜんぜん増したとは思わない
2. あまり増したとは思わない
3. わりに増したと思う
4. 非常に増したと思う

質問4：Moodleを用いることで授業の理解度が増したと思えますか

1. ぜんぜん増したとは思わない
2. あまり増したとは思わない
3. わりに増したと思う
4. 非常に増したと思う

質問5：Moodleを用いたこの授業をよい授業だと思いますか

1. ぜんぜん良い授業だとは思わない
2. あまり良い授業だとは思わない
3. わりに良い授業だと思う
4. 非常に良い授業だと思う

質問6：Moodleはあなたの学習の妨げになりましたか

1. 非常に妨げになった
2. わりに妨げになった
3. あまり妨げにならなかった
4. まったく妨げにならなかった

質問7：Moodleを使うべきでないと思えますか

1. 非常にそう思う
2. わりにそう思う
3. あまりそう思わない
4. まったくそう思わない

回答者429人のうち新入生の回答を表1，図1～図7に示す。ここで各図中の肯定群とは表1の選択肢番号3または4を回答した人の割合，否定群とは選択肢番号1または2を回答した人の割合である。すなわちMoodleに対して肯定的／否定的な回答をした人の割合が肯定群／否定群である。なお，本アンケートの結果のうち，2008年度単独の結果は文献[2]において報告済みである。

表1 学生アンケートの結果

質問番号	有効回答	回答（選択肢番号）			
		1	2	3	4
1	336人	3人	34人	188人	111人
		0.89%	10.12%	55.95%	33.04%
2	332人	17人	127人	154人	34人
		5.12%	38.25%	46.39%	10.24%
3	330人	20人	122人	144人	44人
		6.06%	36.97%	43.64%	13.33%
4	320人	5人	60人	174人	81人
		1.56%	18.75%	54.38%	25.31%
5	329人	2人	27人	203人	97人
		0.61%	8.21%	61.70%	29.48%
6	323人	5人	30人	121人	167人
		1.55%	9.29%	37.46%	51.70%
7	320人	7人	27人	145人	141人
		2.19%	8.44%	45.31%	44.06%

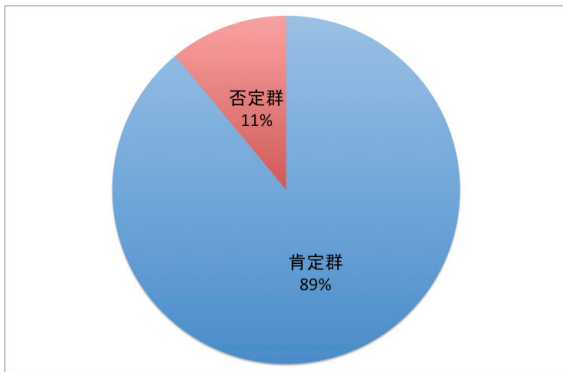


図1 質問1: Moodle を便利だと思いませんか

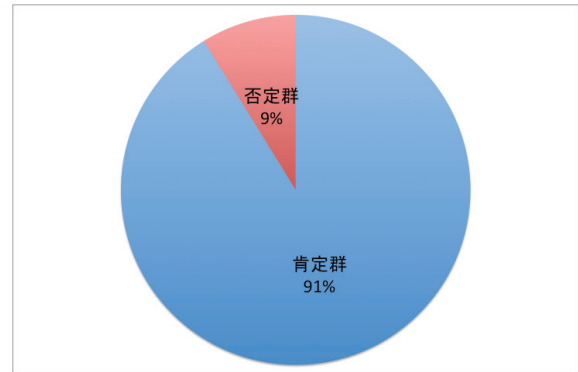


図5 質問5: Moodle を用いたこの授業をよい授業だと思いますか

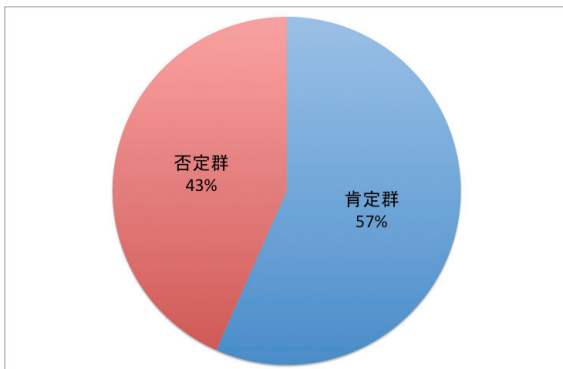


図2 質問2: Moodle の利用に楽しさを感じましたか

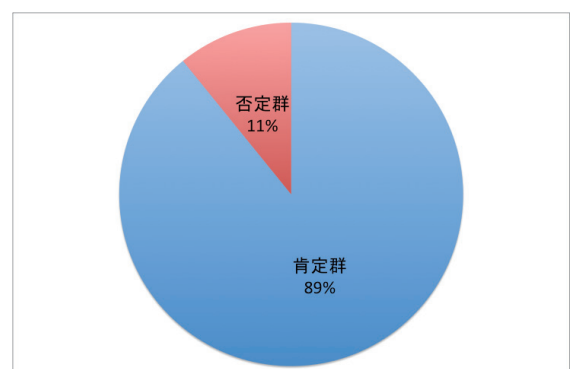


図6 質問6: Moodle はあなたの学習の妨げになりましたか (妨げにならなかったが肯定群)

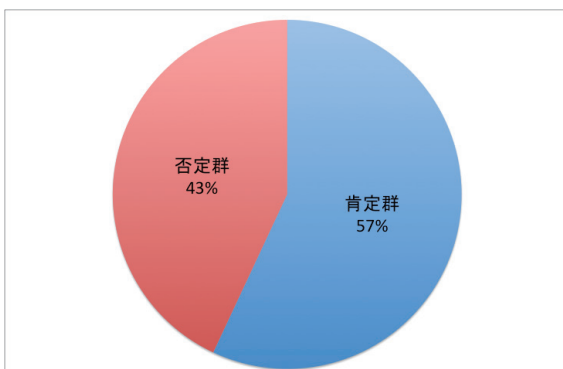


図3 質問3: Moodle を用いることで学習意欲が増したと思いませんか

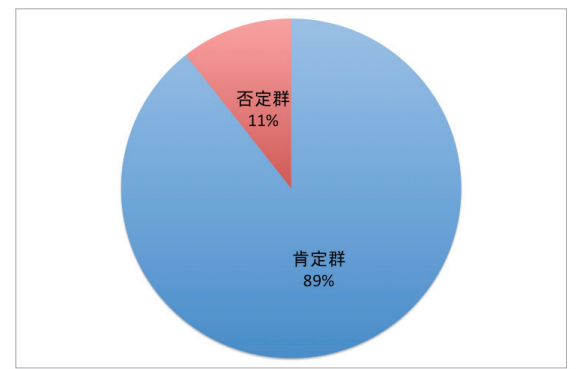


図7 質問7: Moodle を使うべきでないと考えますか (そう思わないが肯定群)

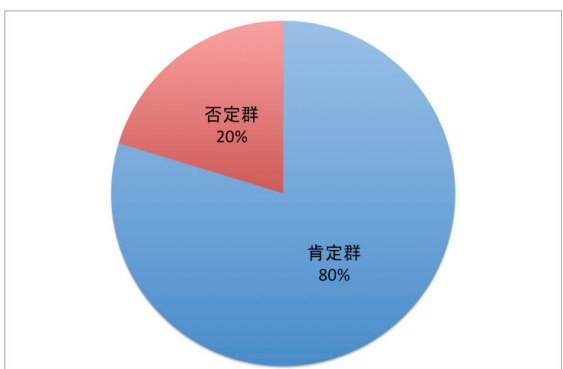


図4 質問4: Moodle を用いることで授業の理解度が増したと思いませんか

4 むすび

すべての質問において、肯定群の割合が否定群の割合を上回った。学習の動機付けに関わる質問2及び質問3は、肯定群が6割弱に留まっているが、CMSが理解度向上の助けになっているかを問う質問4では肯定群が8割である。更に、学生にとっての利便性を尋ねた質問1、CMS利用の総合評価である質問5、継続使用の最低条件である質問6、7では9割前後の学生が肯定群である。

文献

- [1] <http://www.esc.u-tokai.ac.jp/minutes.html>
- [2] 岩崎, 山崎, 藤田, 「授業管理システムを用いた情報リテラシ授業に関する一報告」, 平成20年度情報教育研究集会講演論文集, pp.515-516, 2008